令和6年3月4日 議会のあり方調査研究特別委員会議事録①

11時26分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 末広 天佑

委員 豊川 和也、山代 英資、岡 和明、小出 哲義、
小田上尚典、細川 雅子

議長 北地 範久

○欠席委員 なし

○傍聴者 藤川 和弘、中川 智之、西村 一啓、山崎 年一

○寺岡委員長 皆さん、お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから議会のあり方調査研究特別委員会を開会します。

本日、前半部分の日程は議会情報の送受信、それから議会の役割、議員の役割について諮ります。また後段では、政務活動費について、皆さんで御協議していただくことになるかと思えます。

では日程1の送受信について、山代チーフ進行をお願いします。

○山代委員 ではここから進行させていただきます。

前回2月21日の委員会で議会中継についてと、議会だよりの活用の提案とパネルの作成についての2班より内容の報告をいただきました。また報告いただいた内容について、多少宿題が出ていたと思えます。その進捗をまず確認をさせていただきたいと思えます。

議会中継チームからお願いしたいと思うんですけれども、四つ宿題が出てたと思えます。本会議中のボリュームとかチャンネル等に関する議会中継の案内文の作成、委員会中継における進捗の確認、玖波のコミュニティサロンのちゅピCOMの有無と、マロンの里のネットワークの再確認という4点があったと思えますが、そちらの御報告をお願いいたします。

小田上委員。

○小田上委員 ネットの有無の確認なんですけれども、玖波のコミサロについては、ちゅピCOMの契約はありましたが、ネット環境はないということです。

栄公民館も、ネット環境はあって生涯学習のときには使えたりする環境にはなってるんですが、自由に誰でもという環境ではないので、これは三角かなというところです。

この表には載ってないんですが、サントピア大竹に伺って話を聞いてきました。テレビ設置、ちゅピCOMの契約がありまして、ネット環境もあります。ただ、ネット環境についてはWi-Fiのモバイルルーターのタイプなので、施設の利用者の方にお渡ししているときはネット環境がなくなるときもありますという話でした。ただ、ちゅピCOM契約いただいているので、現状本会議の中継も好意でいただいているということです。

案内文なんですけれども、手順というところで、ひとまず施設で聞いたときに担当課、例

えばコミサロとかだと生涯学習課から欲しいと。公民館も生涯学習課なので、教育委員会から案内文を正式に出してほしいと。ほかの公共施設に準じるところでも、議会事務局から議会日程を教えてもらえれば、そのようにしますと、対応の仕方がまちまちなので、この案内文と依頼文をつくっていかないといけないかなというところは、現状出ています。

実際にボリュームは、自由に触ってもらえるようにというところで、軽くこの3人の中で話ただけではあるんですが、リモコンを置くリモコン入れに中継をしているときは、「中継中です、リモコン、チャンネルは変えていただいても構いません」という案内を差し込むとか、くっつけるのも一つの手かなというところですが、各場所によってチャンネル権があるところ、ないところあたりしますので、その辺りも今後精査していかないといけないかなというところではあります。

漏れてるところがあれば指摘ください。

以上です。

○山代委員 ほかに補足があればお願いしたいと思うんですが。

末広副委員長。

○末広副委員長 補足でコミサロのネット環境なんですけども、元町だけネットの契約してて6,000円ぐらい払ってるということで、あとの2か所、玖波、栄は800円、900円しか払ってないということだったので、ネットは全くない状況かなと思います。

以上です。

○山代委員 小田上委員。

○小田上委員 本会議の中継はこれでなんですけど、委員会の中継に関しては、設置してあるテレビが、ネットに対応したテレビじゃないというのが現状で、ネット環境があったとしても何か機器の追加等が必要になってくるという現状で、予算も絡んできてちょっと止まるところですね。機器を追加しないと委員会中継は難しい状態です。

○山代委員 テレビがネット環境対応になっていないというところで、機器の追加が必須と思うんですけれども、今後機器を追加するに当たって、金額が発生すると思いますが、そこを見て見積りを取ったほうがいいのか、取りあえずこちらは保留という形において、本会議中継に注力するのかわ確認させていただきたいと思うんですが、皆さんはいかがでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 今プラスさせてもらった12か所のところで実際1か所については中継をしたけど、不評でやってませんという場所もありました。なので、今費用がかからないところで本会議の中継をまずやって、興味を持ってもらうきっかけをつくる。プラスそれでも変えずに見てくださる方が多いねと、このやり方が浸透してきた段階で、委員会中継のかなという気がします。

いきなり委員会中継できるように費用をかけて、全く活用されないということであれば、ちょっと残念な感じがしますので、僕はそう思います。

○山代委員 今、小田上委員から御意見いただきましたけれども、他に意見があればよろしくお願ひいたします。

細川委員。

○細川委員 基本的には小田上委員に賛成です。ネット環境がこれだけどこも整ってないというのは、議会でいったら、結構厳しいなという印象を受けました。

○山代委員 ネット環境が整っていないというのは、もう市議会での問題ではなくて、今後整備していただくのかどうかという部分は、各担当課の裁量においてしていただければと思っております。

当面は本会議に注力して、委員会中継は環境が整うめどが立てば、再度話の土壌に上げるというところで考えさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○山代委員 ありがとうございます。

では、案内文の作成については、議長名で各所管課に提出の必要がありますので、まずそのたたき台の作成をお願いしたいと思います。

こちらは引き続き、送受信班でよろしくお願いいいたします。それが整い次第、一応3月議会をめどに、各課に議長から御案内をいただいて放送していくという形になろうかと思っております。

小田上委員。

○小田上委員 議長名で案内文ということで、たたき台はつくります。ただ事務局の協力が非常に重要なと思います。議会日程に関しては、日程が議会運営委員会で正式に決まります。議会運営委員会で正式に決まった段階で、ホームページを確認くださいという作業を各場所の人とか、各担当課にお願いするというのはちょっと無理があるので、事務局に協力いただいて、議会運営委員会の開催通知の結果を議員がもらうタイミングに合わせて、いつが本会議です、中継お願いしますという流れもつくっておかないといけないと思っております。案内文に合わせてそのフローチャートがないと、事務局の対応が大変かなと思うので、そこは事務局と相談して併せて提示できればかなと思います。それでいくと仕組みづくりは3月中にできるかなと思いますが、実際に3月定例会で案内文を出して放送してもらうというのが、始められるかどうかというところは難しいのかな。分からないなというところを今思っています。

以上です。

○山代委員 担当課の都合もあるというところで、まず議会事務局と諮って内容を精査して案内文を作成と。順次準備ができ次第通達して、御協力いただけるところから、時期はその都度、都度調整していく形にさせていただこうと思っております。

こちらの方向性で問題ないでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○山代委員 ではそちらで議会中継については行っていただければと思っております。よろしくお願いいいたします。

続きまして、議会だよりの活用の提案とパネルの作成についてなんですけれども、前回内容、コンテンツを考えてくださいという話で止まっていたと思います。本日、広報広聴特別委員会でも内容、ページを割いていただくという部分を諮っていただいていたと思うんで

すけれども、委員長から何かございますか。

委員長。

○寺岡委員長 広報広聴特別委員会に、議会のあり方調査研究特別委員長として打診をさせていただきました。皆さんには事前にお一人ずつこの原稿でいいかというのを見ていただいて、よろしいんじゃないかと全員からお返事いただきましたので、文書を出させてもらってます。広報広聴特別委員会のフォルダーの中にその文書が入ってますので、中身また御確認をいただければと思うんですが、一応おおむね広報広聴特別委員会でも御理解をいただいて、協力していきたいねという委員長の言葉もありました。

いつから始めるか。どのような中身にするか。または紙面どのぐらいの大きさか。こういった辺りはまた議会のあり方調査研究特別委員会で協議をして、議会のあり方調査研究特別委員会としては、こういった物で提案をしたいねというものをまとめられればと思います。

広報広聴特別委員会は、それを受けて、どれができてどれができないか。紙面もこんなに取りえないねということであればもちろん広報広聴特別委員会に配慮しながら決めていかなければなりませんので、今後はそういったことを取りまとめていく協議になっていくかなと思われま。今日の時点では打診にお答えいただいたというところです。

以上です。

○山代委員 打診に応じていただいたということですので、今後はボリュームと内容について、どんどん精査をしていくという話になろうかと思えます。これはパネル班だけで単独で内容を決めるという部分ではないかなと思えます。ただしパネル班としては、大枠でこういうコンテンツを載せていきましょうという枠組みを、議会のあり方調査研究特別委員会で提示させていただくという方向性でさせていただきたいと思えます。

何か御意見がありましたらよろしく願いいたします。

細川委員。

○細川委員 たたき台をつくるということに関しては、いいと思えます。

○山代委員 では、まずパネル班でたたき台をつくるということにさせていただければと思います。

委員長。

○寺岡委員長 念のために広報広聴特別委員会にお渡ししたお願いの文書を発信をします。

これをお渡ししてこの中身に沿って先方で協議をしてくださいました。中段下辺り掲載開始時期やボリューム、内容、誰が書くかなどの詳細、この辺りを踏まえてたたき台をつくっていただければと思います。

以上です。

○山代委員 ではまずボリューム、内容と執筆原稿者、原稿はこちらで用意する形になろうかと思えますので、まずこの後日程を確認して、話をさせていただければと考えておりますので、パネル班の方はよろしく願いいたします。

これは、また個別に話を詰めさせていただいたほうがいいかなと思うんですが、いかがでしょうか。

委員長。

○寺岡委員長 そうですね。個別に話を進めていただくんですが、原稿執筆者も、今チーフはこちらでとおっしゃいましたが、皆さん何となくそう感じておられるかもしれませんが、それも決定事項ではありません。もしかしたら先方も、広報広聴特別委員会の中でこういうのやりたい人がおるからお願いするという御意思をお持ちかもしれませんが、あくまでまだ提案で進めていただけたらと思います。

○山代委員 あくまで提案という形でまずたたき台をつくって、まず議会のあり方調査研究特別委員会の上で一遍上げると。議会のあり方調査研究特別委員会で広報広聴特別委員会と調整を行った上で、正式な物にしていくという形で手順を踏んでいきたいと思いで、よろしくをお願いします。

小田上委員。

○小田上委員 広報の掲載の件で確認なんですけども、たたき台をつくっていただくに当たって、どちらが編集するにしても議会のあり方調査研究特別委員会からこういうのをお願いしたいと、記事の内容をお願いしてる以上、こちらにも内容の責任があるんだろうと思います。ただ広報広聴特別委員会としても、この文言はどうだろうという場合には、それをしっかり受け入れるというか、お互いに編集ができるような体制でないと、絶対に譲りませんとなってしまうとよくないと思うので、その辺りを組み込んだ計画とか内容になればいいかなと思います。

それと、このスケジュールに入ってると思うんですけど、どのスパンで終わらせるのか。例えば、議会のあり方調査研究特別委員会とか改選すると2年ごとに交代ということになるので、1年スパンで考えるのか、2年スパンで考えるのかという辺りも示していただければと思います。協議をするのも内容も回数も限られてますので、1年となっちゃえば、4回とか8回でやるのかというところで書き方も変わってくると思うので、その辺りの提示もしていただければ、話がしやすいかなと思いました。

以上です。

○山代委員 こちらは具体的なボリュームにかかってくるので、今明言ができる内容ではないと思うんですが、議会だよりの発行が年4回なので、シリーズとして考えるのであれば、もうちょっと長いスパンになるのかなと考えておりますが、それはまた確認をしながら進めさせていただきたいと思っております。

○寺岡委員長 山代チーフどうもありがとうございます。

では日程2に若干入りたいと思います。メインは午後からになると思うんですが、これまで流れを皆さんと共有しながら進めてきました。議員の役割、議会の役割、また心構えなどについて、それぞれこれまで御披露いただいて、先週、講師の先生をお招きして一つの考え方をお示しをいただきました。

研究されてる方ですので、胸に刺さる話、耳の痛い話、また先生はこうお考えだけど自分はこう思うなという、そういった気づきもそれぞれの捉え方があったのではないかと思っております。

今後、願わくば3月中くらいに、私たちの委員会から、議員、議会の心構えを明文化し

た物を議会全体に御披露しましょうというところをお伝えしております。これから明文化していく作業に入っていこうと思っています。

これから休憩して午後に再開をする予定ですが、前回の会議、前々回の会議で、メモに残しておりますが、議員の役割とかその辺りを上げてもらっています。これについて、これをベースとしながら、誠にそういうことよということもあるでしょうし、いやいや私はこう感じてますよということもあるでしょうし、意見交換を進めていこうかと思えます。もちろん先生からいただいたお話で、特に印象深かったものは15名の議員みんながしっかりと認識しておかなければならないというものの追加もオーケーかなと思います。

基本はそれぞれ上がったメモを切り口として持っていければと思います。今のところのイメージは箇条書で、何か条かを出せばいいかなと思っていますが、それが今の時点で何項目出すというのは、決めてかからないでいこうと思っています。ただあまり多過ぎたらぼやけてしまいますので、それなりに絞りながらになるかなというイメージは持っております。

ですので、お昼休憩挟んで、その間に皆さんそれぞれの考えを整理しておいていただきたいと思えます。メモをひも解いていただきながら、この人の意見面白いなど、この人の意見にはちょっと一言つけさせてもらおうといったものを、そういったお昼を過ごしていただきたいと思えます。

何か問合せありますか。

岡委員。

○岡委員 お昼の後の会議に向けてなんですが、協議資料を御覧いただけますか。

○寺岡委員長 協議資料のどこを見ましょうか。

○岡委員 協議資料の政務活動費に関する資料です。

そこで今日付で事務局から、政務活動費申合せ事項についてという文章を送っていただいています。政務活動費申合せ事項についてのまとめです。出だしが1番、携帯やインターネットに関わる経費というようなので始まる物です。

私は1人会派の4人を代表して、1人でここにいますので他の3議員をまとめて御意見いただいて、取りまとめて提出した次第です。それでこれをちょっと先ほど見て私は大変困惑してしまいました。

まず一つは、他の3議員の3方の御意見をそのままでは取りまとめて、そのままの形で出したんですが、かなり非常に事務局がすごく要約をしておられるということで、ちょっとこれはせつかくその3方が丁寧な御意見をいただいたんですが、ちょっとこれだと全然意を尽くしておられないような感じになってしまうので、申し訳ないなと思っておりますので、ちょっと心配であります。

ほかの1人会派以外の委員の意見もまとめているようなので、ある程度まとめられるのはしょうがないかと思えます。そしてちょっと私が書いたところも、これデータで送ったんですが、事務局が何か手で打ち直しておられますよね、これ。

○末広副委員長 私が内容を変えてるわけではないですけど、語尾をちょっと変えてはいます。ほかの方もできるだけ特定はしないような形で、特にこれを誰か分かるようにしてここに掲示すると言っていないので、分からないような形でまとめてはいるんですけど、岡委

員のは確かに最後に分かりやすく、多分分かりやすいといったら分かりやすいんですけども、ここは内容は特に変えてるつもりはないんですが、すみません変わってたら申し訳ないです。語尾をちょっと変えてたりはしてます。

○岡委員 分かりました。すみません。なぜかほとんど何も全く丸々載ってるかのようなんですが、ちょっと打ち直されているよって、おかしくなってるところがあるんでちょっとだけ申しますと……。

○寺岡委員長 ちょっと待ってください。この資料についての気づきを岡委員は今おっしゃってますか。

○岡委員 ちょっと1点だけ。

○寺岡委員長 これについては次の第2部の会議が始まるまでに調整をして、差し替えが可能であればそれで進めるということによろしいでしょうか。

○岡委員 それでも結構です。ちょっと一言これ言わせていただきます。

○寺岡委員長 分かりました。

○岡委員 一番言いたいのは、サブスクリプションの。

○寺岡委員長 すみません。それが今後の心構えとかに関わるのであれば、発言を続けていただいて結構なんですけど、それは政務活動費に入ってからまた御意見いただきたいんですけども。

○岡委員 そうですね。ただ、そう言ってる間にちょっと説明ができそうだったんですが。

○寺岡委員長 じゃあ末広チーフ、差し替えできる部分があれば、次の会議までに直しておくようにしてください。それでよろしいですね、岡委員。

○岡委員 ええ、内容ぱつと説明すればよかったんですが。

○寺岡委員長 今はこの資料についてはありませんので、御理解をいただきたいと思えます。また政務活動費の議事に入ったときに追加があれば、資料の補足説明をいただくということで御理解をお願いします。

それでは、よろしいですかね。午後休憩明けに何をするか、皆さん御理解いただきましたか。いいですか。

ではそのようにしますので、それぞれ準備をよろしく願いいたします。

暫時休憩いたします。再開は午後1時を予定します。

11時55分 休憩

13時00分 再開

○寺岡委員長 それでは定刻になりましたので、会議を再開します。

午前中に続きまして、日程2、議会の役割、議員の役割をちょっと掘り下げるところに入っていこうと思うんですが、お話をしましたように、これまで出てきた意見これについて、それぞれ持っておられる考えを述べていっていただきたいと思えます。

ちょっと説明しましょう。模造紙を事務局が貼ってくれました。時系列的には、2月2日は目指す姿の共通理解ということで、我々が今からどう動いていくかという説明をさせてもらいました。今ここです。講義が終わって合意に至るまでの考えを育てていく期間です。ここになります。心構えとして、議会基本条例2条、3条あたりの言葉を拾わせて

いただきました。

それについて、それぞれ議員とは何ぞや、議員とはどう在るべきかというところで、まずはこの3、ここに入っていきますね。こういう感じでそれぞれの思いを話していただいて、日を変えたときに今度は組織としての議会、議会の心構え、あるべき姿として、それぞれの考えを述べていただきました。議員と議会ですね。ここは第3条の捉え方について問うてみたところですね。議員にとってのふさわしい活動、ふさわしい品位というのは何であろうか、こういったところで意見をそれぞれ出してもらってます。

基本的にはメモにも書いてありますので、お手持ちの端末と見比べながらやっていただけたらと思います。

今日は書記を事務局にお願いをしております。私もファシリテーターというよりコーディネーターとして立ち回っていければなと思ってます。私自身の意見も途中で述べていく場面もあると思いますので、書記をよろしくお願いします。

今日のいろいろ出てくる意見もまたまとめて、心構えを何か条かつくる中の礎にできたらと思いますので、そのつもりで御発言をいただけたらと思います。

では午前中にお話ししたように、これら様々な意見が出ています。肯定するものでも否定するものでも構いません。また講義を受けてからの追加でも構いません。発言を許したいと思います。

小田上委員。

○小田上委員 まず確認なんですけど、複数回にわたって発言しても、行ったり来たりがあっても、大丈夫ということですね。そこを確認させてください。

○寺岡委員長 ルールをもう一回説明します。

もちろん発言は何回やっていただいても構わない。個別の意見に対して、Aさん・Bさん、Aさん・Bさんというやり取りもありだと思えます。それで考え方がまとまっていけばいいんじゃないかなと思います。

それから挙手をしていただいて、指名はするんですが、着座のままで構いませんのでそれも含みおきください。よろしいですか。今、模造紙では議員個人、それから議会、組織としてと分かれています。御意見いただいたら結構やっぱり関連しとるといふか、延長してるものもかなりありますので、特に議会は議員はとしないようにしたいと思えます。それはまたまとめるときに精査していけたらと思いますので、お含みおきください。

小田上委員。

○小田上委員 講義を受けたというところでの話をさせてもらえたらと思うんですけど、基本的に講義の中でも市民の意見を吸い上げる、市民の意見を反映するというのをかなり多く言われたかなと思います。議会としても議員としても、市民の意見というものをしっかりと聞く姿勢というのが必要なかなと思いました。

それに加えて、議会で言うところの、やっぱり議事機関という言葉がこの議員15人の中ですぐ出てこなかったというところは、もう一回認識しっかりし直して、議事機関というのは何なんだろうというところを、もうちょっとこの基本条例の中を含めて定義できたらいいのかなと思いました。議事機関というところに当たってはしっかり審議を行うこと。

あとプラスで政策の提案というのが必要なのかなと思いました。なので、議会として政策の提案をしていくためには、議員個人の勉強、活動というものも求められてくるので、その辺りを明文化できれば、より一層よくなるのかなと思いました。

そして、話を聞いてて議決権を増やす、議決項目を増やすということもありましたが、議会のやるべきこと、パワーバランスというか何でしょうね、議決事項があんまり増え過ぎると、執行部の動きが取りづらくなるんじゃないかとか、どこまでのレベルで議決事項を増やしていくべきなんだろうかというのは、その話を聞いててバランスが難しいなと思いました。

それに若干関係あるんですけど、議決事項を増やすということは、議会の権限というのが強くなるのかなというところではあるのですが、品位のところでありました議員個人の品位は、以前話に出たところで議員は別に偉いわけじゃないよというところ。権限はあるんだけど議会として権限があって、議員が権限を持ってるわけじゃないという。そういうところの区分けがしっかりできればいいのかなと思ってます。

- 寺岡委員長 総合的なお話をいただきましたね。市民の意見を吸い上げ反映できるように聞く姿勢を持つことが大事だというのが印象的だったと。議事機関ということに我々があまりにも今まで無関心であったので、もう少し15名の中で共有できたらいいんじゃないか。しっかり審議すること、政策提案することが議事機関の務めであるが、それにはやっぱりまずは個人の勉強や活動というものをしっかりしていきましょう。その辺りは明文化するべきじゃないかということですね。

議決事項の話については、増やし過ぎたら執行部の取組が狭まるので、その辺バランスよく議会の権限が強くなり過ぎないように配慮が必要ではないかということ。あと品位としては偉いわけじゃないと。議員が権限があるわけじゃなくて、議会が権限があるんだよという言葉の説明をいただきましたね。

総合的なことでした。今私もちょっと早口になったんですが、一生懸命書いてくれるので、もう少しじっくりお話しいただいても構いませんので、お願いします。今のお話を受けてでもいいですし、これまでの会議の発言の中をピックアップしたものでも構いませんけども。

山代委員。

- 山代委員 先日の講習を受けてなんですけれども、今小田上委員の発言にもあったように、私一番最初にパワーポイントの資料はつくったんですが、議事機関というのが私の中で抜け落ちている部分が大きかったんじゃないかなと。その意識を15名全員でもって、じゃあ今足りない部分をどうやって肉をつけていくのか、というところが重要になってくるんじゃないかなと考えました。ですから、そこができて初めて大竹市議会としての方向性なり品位なりの統一性が図れる部分もあるのではないかなと考えております。

以上です。

- 寺岡委員長 同じく議事機関のことを触れてくれたんですが、要は、基本条例が我々の歩むべき道なわけですけど、この議事機関という辺りもちょっと精査して、基本条例の中にも意味合いを加えていくことも大事なのではないかというぐらいですかね。

細川委員。

○細川委員 2人から議事機関についてお話がありました。今の太竹市議会が議事機関としての機能を本当に発揮しているのか。議事機関としての機能を発揮するためには、私はもっと自由討議を充実させたほうがいいんじゃないかと思うんですけども、だからまずは今本当に議事機関としての機能を発揮してるのかというのを少し話をして、もし抜けてる部分があるんなら、何をしたらいいかという話をしていったらよろしいかと思ひながら話を聞きました。

○寺岡委員長 議事機関についての話が今中心になっていきつつあるんですが、議事機関を説明できる方いらっしゃいますか。さっき小田上委員は、しっかり審議して政策提言というところは紹介してくださいましたけど、ほかどこかありますか。

細川委員。

○細川委員 私、合意形成をするのが議会の大きな仕事だと思ひてます。多数決で決めるんじゃないくて、市長の提案に対して、それぞれ皆さんのその思いを持ち寄って、一つにまとめ上げていくことですかね。だから市長の提案は全てじゃなくて、みんなの意見の中で直すべきところは直させていくというね。言ってみれば議案の修正になるかもしれませんが、そこに向けてもう賛成と反対とばちっと分かれるよりも、それぞれの言ひたいことを受け入れながら、できることなら一つにまとめる。その作業を議会が求められているように思ひてます。

○寺岡委員長 なるほど。一応最終的には過半数とよく言われるけど、それまでの間でしっかりお言葉を借りれば、審議、熟議をしながら合意形成を図ることを努めるということですかね。

議事機関についてもそうですし、議会のあり方、議員の在りよう、この辺りどうですか皆さん。

小田上委員。

○小田上委員 今議事機関というところに話がいつてるので、議事機関の話で思ひてることを言わせていただくと、講義の中では議事機関のこの議事って何かと言われたのが、審議すると熟議すると言われていたと思ひます。

今、細川委員が言われた自由討議というところが、熟議するにつながるのかなと思ひますが、ほかの市町とかの議事機関の用語解説を見たりすると、合意によって団体の意思を決定する機関と解説してあつて、意思決定機関、議決機関と同じ意味ですと書かれてたりもするので、太竹市議会の中でのこの議事機関の捉え方というのを明確にしておかないと、議事機関大切だよって、その議事機関の機能が大切だよってだけだと、漠然としちゃうのかなと思ひました。なので、この議事機関という言葉がどういうものだという太竹市議会なりの捉え方が明文化されてないと、今後の活動につなげにくいのかなと思ひました。

僕はこの講演でも言われていた、審議する機関、熟議する機関。審議すれば代案も出る。熟議すれば変更もあり得る。熟議するからこそ合意形成が得られるという効果があると思ひるので、この二つを念頭に置くことがすごくいいのかなと思ひてます。

以上です。

○寺岡委員長 二つというのが審議、熟議ですね。

いずれ、どこかで基本条例について改めて見直すときには、こういったことも踏まえておく必要もありそうですね。言葉の定義というのが捉え方がそれぞれ違うケースもありますので、いろいろな捉え方を持ち寄って、大竹市議会なりの合意形成、この言葉の意味はこれだねというものをつくるのも大事かもしれませんね。

その他、何かありますか。議事機関から抜けても構いませんし、このまま続けていただいても構いません。

それでは私から問わせていただくとして、事業提案と政策提案、この違いというのは皆さんどう受け止めてますかね。

市が執行権を使っていろいろな事業をやってくれています。その提案と市はこっちの方向に進めますよという政策の提案、この違いって皆さん何か持っとしてですか。世の中で使う言葉で言えば、戦略と戦術の違い。またもっと細かく言えば、そこに戦闘というのが入ってきますけど、この違いなのかなと私は思っています。

これは、今議会、議員からいろいろと発言をするときに、恐らくこの事業提案というのと政策提案というのに、大きく分けることができるんじゃないかと思うんですよ。その違いを皆さん方が何か意識を持っておられるかどうかというのは、すごく興味があるんですけど、どうでしょう。

末広副委員長。

○末広副委員長 もう単純明快に政策はポリシー、方針。事業はプロジェクト、計画という意味合いじゃないかなと思います。

○寺岡委員長 末広委員御自身は、この使い分けとかどうですか。

○末広副委員長 個人的な私の仕事のところにもなってきますけど、ポリシーは代表者である私が従業員に伝えて、会社の方針として決めていって、それを理解してもらうのが、政策、ポリシーになりますけども、事業は個別の事業、仕事の進め方だったり、これがどういうふうに関後、会社に対してどのような、影響じゃないな、すみません、ちょっとまとまり切れてないんですけども、1回終わります。

○寺岡委員長 むちゃ振りに応えてくれてありがとうございます。このように発言の中にもやっぱり違いというのはあるわけですね。だからそこら辺は整理して言葉に乗せることができれば、執行部にも伝わりやすいかなというのは、今回この時間を迎えるまでに考えて感じたところではあります。

そういったところの紹介でもいいですし、これまでのこの委員会の取組の中の発言を拾って、これはすごくいい意見だった。これはちょっと心からは賛成できないとか、そういったのも今のうちにやっておきたいんですけど、皆さん方がいいですか。

どうぞ、小出委員。

○小出委員 今審議ということ、議事機関であるということでのお話の中で、自分なりに議員活動スタートしながら、もやっとするところがありまして、審議するといっても、なかなかこの執行部からの事業の説明であるとかということころは、さらさらっと説明されなが

ら、その事業案というのは各、部署で出てきたもので、その専門家たちが練った政策が出てくるわけですけど、熟練されていらっしゃる議員であればそうではないんでしょうけど、新しい議員にとっては言葉一つの理解についてもなかなか追いつけないところがあって、本当に審議するとかということまで至っていない。

十分に現場のその執行部の担当者レベルに理解しようと思うには、あまりにもこの期間が短過ぎる。そういうところでちょっといろいろジレンマを抱えておるのが事実ですね。まだそこまで議事、審議に至っていないというようなところ。

○寺岡委員長 なるほどね。今お悩みを御披露くださいましたけど、どうですかね。何年かやっておられる方で感じてるところがあれば、お答えいただければ。

小田上委員。

○小田上委員 例えばですけども、一般質問をしまして、当時は検討しますという執行部の答弁で終わったところが、実際に事業化されました。それは一般質問だけがきっかけだとは思いませんが、いろいろある中での実現されてきた事業とかがある場合にも、予算書や議案で上がってきて初めて知ることが多々あって、もうちょっと早く言ってくれたらうれしかったなみたいなことは経験値としてあります。

なので、そこをどう補うかというのは、もう自分が気にしてるところは常に担当課に聞きに行くということに限るのかなと思うんですが、あまりにもそればかりをやってると、今度ほかのことがままならなくなって、担当課も議員に説明する時間を取られるので、なかなかそういうジレンマもあります。気にしてることの進捗状況だったり、今後の事業についてどうなんだろうと聞くのは、正直難しいかなというのは経験してて思います。

ただ、この間の研修会の中であったとおり、新規事業については早めに聞くという仕組みがもしできるのであれば、しっかり議論していく時間はもらえるのかなど。既存の事業であれば、やはり期数のある議員に聞くとか、担当課に聞いても既存の内容の説明であれば比較的スムーズにできるのかなと思うので、やっぱり議員は受け身じゃ駄目なのかなど。受け身じゃ駄目なのかなどというか、実体験として受け身でいると何も分からないというのが、正直なところかなど思ったりしました。

実体験と自分の感想です。

○寺岡委員長 これ捉え方によっては一般質問などが事業化されるのは、1回言っただけじゃかなわないことも結構あるよというぐらいも含まれてますよね。分からないなりに聞きながら、担当課にも問合せに行く努力をみんなでしましょうよということになりますかね。

新しい事業というのは、本当に誰も分からないわけですから、その内容を調査していくのは、私たち議員の仕事でもありますし、分からないうちに聞く、それで分かった上で聞く。中身それぞれ意味があると思いますから、そこはしっかりやられてもいいんじゃないかなと思いました。

その他、何かあれば。

末広副委員長。

○末広副委員長 今の話につながるんですけども、講義の中で先生はそれを暗にそうしろって言ってたわけじゃなくてと思うんですけども、とにかく執行部には対峙じゃないけど、

しっかり物事は言うべきだともおっしゃってましたし、仲よくなっちゃ駄目だよと、裏でつながっちゃ駄目だよみたいなことも、講義の中でおっしゃってたと思うんですけども、それそのものを全部否定しているわけではないと思います。

やっぱりバランスが必要で、窓口に行ってヒアリングもそうですけど、言葉としては悪いですけど根回しはしっかりして、執行部とのバランスは取るべきかなと思います。

○寺岡委員長 根回しといたら、何かよくイメージが悪いときに使われたりすることもあるんですけど、補足ありますか。

○末広副委員長 この根回しをどう捉えるかですけど、物事で話を進めるための前準備、調整だと思います。

○寺岡委員長 物事を前に進めるための調整、前準備ね。

そうですね、バランスもちょっと言ってくださいましたけど、小田上委員の言葉で言えば、自分で気にしていることは担当課に聞きに行く。それをしっかり努力しましょう。末広副委員長の言葉でいえば、執行部には絶えず言えという言葉が印象的だったと。でもそれも結局どちらもバランスということですかね。私らが全てを知りたいからといって、8時半から5時半までずっと担当課におられたら、ほかの仕事できませんからね。その辺のバランスをちゃんと考えて、市として機関として回っていくように、我々も分かった上で立ち回っていかないとやいけませんね。

ほかにも何か言っておきたいことがありますか。

細川委員。

○細川委員 さっき委員長から事業提案と政策提案という話がありました。提案じゃなくて逆に今度私、事業評価と政策評価の視点なんですけれども、常々議会というのは、政策評価をするところじゃないかと思ってるんですけども、その辺皆さんどのようにお考えでしょうか。決算のときにいつも思うんですけどね。もうちょっと政策評価の視点を議会として考えなきゃいけないんじゃないかなと思いつつながら、まだまだ実力不足を感じてますが、いかがでしょうか。

○寺岡委員長 それは細川委員、往々にどこが個別というわけじゃなくて、何となくちまちましたことに質疑がいつてしまいがちとか、そう思ったらいいですか。

○細川委員 もちろん一つ一つの事業の成果とか効果とかというのは必要なんですけども、全体としてそれを進めた上で、大竹市のまちづくりの中で持っている政策がどの程度評価できるかとかの辺りの見方があると、全体のまちづくり構想の中で今回の決算がどの程度進んだかとかいう視点で見れるから、すごくまちづくりが進んでるとか足りないところが見えてくるというような気がするんですけど、一つ一つの事業に目があまりにも行き過ぎると、そこで止まっちゃうような気がするんですよ。議会の役割ってもうちょっとあるんじゃないかと思いつつながら考えてます。

○寺岡委員長 事業評価、政策評価という辺りで皆さん何か思いがありますか。

小田上委員。

○小田上委員 まず今決算の審査が例に挙がったので、決算の審査でいけば、僕の決算経験上ですけど、事業評価に終始してるところがほとんどかなと思います。

ただ、事業評価をしっかりとしないと、基本的な政策、基本構想とかがあつての事業ですから、事業の評価をしっかりとあげて、これは要らないんじゃないのというものを出すとか、これはどんどん促進してほしい、拡充してほしいというものをしっかりと言わないと、政策の充実につながらないとも思うんですね。その要らない物を削って、そこで使った費用をほかの物に回すきっかけだったり、政策をよくするため、実現するために事業評価というのもすごく大切なのかなと今話を聞いて思いました。

なので、決算でどっちをすべきかという、全体的にしないといけないんでしょうけど、政策というのは基本構想だったり、基本計画とかそういう物の考え方だと思ってるので、どんな事業をやるにもそれを基本に事業をひもづけてされてると思うので、単年度の決算ということになると、事業評価に終始してしまうのはしょうがないのかなと話を聞いて思いました。

ただ、それを受けての決算の議会からの提案は、政策に向けての提案のほうがいいのかと。そういう傾向があるから今後の政策はこういう政策がいいんじゃないかとか、基本構想とか、見直しのタイミングありますが、それに向けてとかという取組も一つなのかなと。なかなか政策評価を予算費目でしようとしたときに、イメージが浮かびづらかったように思いました。

○寺岡委員長 これについては何か。

細川委員。

○細川委員 市長の政策評価は誰がしたらいいんでしょうか。

○寺岡委員長 小田上委員。

○小田上委員 市長の政策評価、今例え話が決算だったので、決算の場で確かに市長が基本的に方針を今回予算上程されてますけど、市長の思いとして上程されている物、それが執行されてその結果が決算なので、それも議会がやるべきことだと思います。なのでこれに今までのやり方にプラスアルファ何かをしないと、政策評価をしてるというのは言いづらかなか現状では思いますね。でも、やるべきなのは議会だと思います。

○寺岡委員長 評価についての話に大分流れてきてます。今のところおさらいすると、この政策評価にしても、事業評価にしても、議会の役割、議員の役割というところに当てはまっていきます。最初から行くと、個々の勉強、活動というのがやっぱり根っこにあるよという話、議事機関として自由討議の充実をさせましょう。審議、熟議を図っていきましょう。議事機関という言葉で一時やり取りしながら、担当課に話を聞きに行ったり、とにかく絶えず言い続けるという話もありますが、全てはバランスの中で活動していきましょうということ。こういった辺りが上がってきました。市長に対してしっかり評価できるのは議会しかないんじゃないかという話もありましたかね。

大きな話になってきますけども、もう少し個別の話でも構わないんですけど、これらの意見についてとか、何かありますか。やっぱり目立つのが、選挙に通る活動と、自分の信念を持った活動のこのバランスよねというのが、2回前の会議で出ましたけど、こういった辺り、そのバランス量がそれぞれみんな違うんじゃないかと思うんですけども、そこら辺はどうですかね。こういうところも、ある程度のところですり合わせておいたら、自

身の考えの深掘りになるかなと思うんですけど、そもそも選挙に通る活動って何ですかね。どうぞ、末広副委員長。

○末広副委員長 選挙に通る活動というか、私の考えとしては、自分の信念を持った活動で議員にふさわしい活動をしてたら、選挙にはおのずと通るんじゃないかなと思います。

以上です。

○寺岡委員長 そのふさわしい活動が分からんよ。何かもうちょっと補足してよ。ふさわしい活動とは。

○末広副委員長 ちょっと時間を下さい。

○寺岡委員長 どうぞ。ぱっと思いつきで構いませんよ。議員にふさわしい活動というので、具体例を出していただいても構いませんし、どうですか。

小田上委員。

○小田上委員 自分たちは議員に選ばれている立場なので、一旦それを置いて、市議会議員選挙のときに、多分皆さん自分に投票されてると思うので、ほかの誰かに投票してたときのことを思い出してほしいんですけど、僕は、この人にこれをやってほしいと思って投票をしてないんですよ。この人に任せたとって投票してる人が多いので、その人がやりたいことを、一生懸命信念を持ってやってくれば良いと思って投票してたので、その人が信念を持った行動をしてくれることが一番です。

末広副委員長の言われたとおり、自分がこれをやるべきなんじゃないかという活動をしてれば、おのずと通るんじゃないかと言われましたが、その活動では落ちることもあるだろうと思うので、信念を持った活動プラス、アピールが必要なんだろうと思います。どんなアピールがあるんだろうと思うと、なかなか具体例を挙げづらいですが、こういうことをやってほしいという願いを持って、投票される方もおられるでしょうし、もう任せたという2種類があると僕は思ってますので、その2種類がある時点で、選挙に通る活動というのはまた限定しにくくなるのかなと思いました。

以上です。

○寺岡委員長 何となく思い酌んでますか。そんなことないよって、反論大歓迎なんですけど、いいですか。

バランス感覚。さっきもバランスがありましたけども、こういったところでもバランスが出てくるかなと思います。議長も何かあったらおっしゃっていただいて構いません。

細川委員。

○細川委員 こういう場なので、自分自身ですごく不本意だと思ってることなんか、本音で語らなきゃいけないと思いますので、発言させていただきますがいいですか。

1期目の皆さんは、まだ選挙1回しか経験しておられないので、2回、3回、4回と経験した者とは若干感じ方が違うと思うんですけども、さっきの選挙に通る活動の話ですよ。皆さん、選挙のときにやっぱり私は市をこう変えますとか、議会をこう変えますとか、議会議員になったらこういうことを主張していきますとか、そういうことを市民の皆さんにお約束をして1票いただいて、ここにいるわけですよ。

でも4年間の間に、もちろん自分の思い違いだったということもあると思います。でき

なかったこと、4年間でできることって本当に少ないですから、4年たってその次出ようといったときに振り返りがあると思うんですけども、そのときに自分がしっかり4年前に約束したことに、次の4年目にしっかりと説明できるようであれば、落ちても通っても納得できる部分ってあると思うんですけど、ちょっと話がまとまらなくなりました。

要するに、選挙のときに自分が約束したことをしっかりと忘れずに、4年間軌道修正する場合には、やっぱりその部分はしっかりと市民の皆さんに御理解いただくような活動が必要だと思いますし、思ってもできないことも山ほどありますので、その部分をいつもいつも見直しながら、活動していく必要があるんじゃないかなと思います。

要するに真摯に向き合わなきゃいけないということなんですけどね。ごめんなさい、まとまりませんでした。

○寺岡委員長 やっぱり公約をみんな守るように努力して、議員個人として守るように努力しましょうということ。そうすれば4年後振り返ったときに、その次の結果というものにも、違う、逆か。結果4年後の結果に満足するためにも、その公約、信念を忘れずに臨んでいきましょうという、そういうことですかね。

ありますか。山代委員。

○山代委員 私まだ1回しかまだ選挙を経験してないんで、ちょっとよく分からないんですけども、細川委員が言われたり、小田上委員が言われたことがほぼじゃないかと思うんですが、自分が何をやりたいかを掲げて、まず選挙に出ますよと。こういうふうなことをしたい、こういうふうに変えていきたい。

それと、さっき小田上委員が言ったように、この人に託すという部分もあって、この議員の一人一人の人となりを見て、全く入れる人と受ける人が同じ考えということはありませんので、この人であれば1票なり、私の考えを負託してもいいと思えるような方を選ぶということですかね。選挙に通る活動というのがあれば、私はぜひ教えていただきたいです。

以上です。

○寺岡委員長 公約、政策以外にもその人となり、その辺りも影響しているんじゃないかということですかね。だからそれをそうやって入れてくれた人を裏切ることはないように、品位を持ち合わせておきましょうというお話でした。

何かそれぞれのお悩み相談みたいなニュアンスも出てきましたけれども、実際我々が今議員としては活動させていただいているところですよね。ちょっとお尋ねをしてみたいんですが、よく市民の意見を聞いて届ける。市政に反映させるように努めているというのが皆さんだと思うんですが、仮に市民が間違ったこと言ったらどうですか。

これは岡委員が言われた、選良というところにもなると思うんですけども、この辺りいろいろ出ている意見の中で、ある程度相反するような考え方だと思うんですけども、皆さんはどうしておられますかね。これは議員として議会の一員として、どのようにやっておられるかなと思うんですけど。

どうぞ、豊川委員。

○豊川委員 私、先日会派で議会報告会をやったんですが、同じようなことがありまして、

自分はちょっとそれは違うよということがありまして、市民の方は、いやそれも違うだろうということがありました。先ほども選挙に通る活動と言われたんですが、その方にはもうおまえは次はないって言われたんですが、それでもやっぱり議員として信念を押し通そうと思ひまして、その答えは譲らなかったです。

以上です。

○寺岡委員長 市民の方と議論ができたということですかね。

小出委員。

○小出委員 間違っただ意見というのが、事実誤認のような間違いでしょうかね。あるいはこの政策の物事の捉え方で自分と違うということでの間違いなんではないでしょうかね。事実誤認であればその場で正しく自分が事実を知っているようであれば、こうですよと説明をしようと思うんですが、自分と考えが違ってるからといって、決して自分の考え方が正しいとは思わないですから、そういったときはその方の意見を参考として聞いて、自分はこう思いますが、という話をするでしょうかね。

○寺岡委員長 そこで市民の方の思いの真意を酌むために、意見交換をするみたいなことがあります。

○小出委員 そうですね、いろいろお話をして、なるほどなと思えるようなところがあれば、参考にさせていただくこともあると思います。

○寺岡委員長 皆さんどうでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 今、小出委員が整理してくださって、事実誤認のときは皆さんそうされてると思うんですけど、考え方が違うなというところで、自分とは違う意見のとき、自分の意見は言うようにします。ただ、こういう意見の人がいましたということは、会派なりでまず持ち寄って、その件についての考え方というのを、ほかの角度から考えるべきかなと思ってます。

なので、その場で意見が合わないから、もう知らないよじゃなくて、今小出委員が言われたとおり、参考として持ち帰って、会派なり例えば委員会でもいいと思います。こういう意見があったんだと、本当にその1人から聞いた言葉とかだと、ニュアンスが違うこともいっぱいあるので、その場で結果を出すんじゃなくて、いろんな角度からの意見を聞くというのも必要かなと思います。

それが会派の場合なのか、委員会の場合なのか、ほかの市民の人の声なのかというのは、いろいろだと思いますけど、考え方が違うからそれは無理だわという突き返し方は、よっぽどすごいけんまくで言われないう限りは、やるかなと思いますね。すごいけんまくで言われた場合も、あんまり言い返しちゃうと火に油を注ぐこともありますので、まず受け止めることをしっかりやろうと心がけてやっています。その後、相談ベースだったりとかで、ほかの議員の意見を聞いたり、ほかの市民の方の意見を聞くことにつなげてる状態です。

以上です。

○寺岡委員長 はい、どうぞ細川委員。

○細川委員 例えば、すごい具体的になりますけど、大竹市に生産できる医療機関はありま

せん。本当に多くの方が産科を欲しいと、産めるところが欲しいと言われるんですよね。じゃあ現実にできるかといったら、それはすぐにできないことを私たちは知っています。そういうときに議員としてどう考えたらいいか。議員として市民の皆さんの思いは、やっぱり受け止めなきゃいけないと思うんですよね。

でも、すぐにはできないことも分かってる。そのとき議員として何をしたらいいかというのが、すごく問われるように思って、そのときにやっぱり単なる地域の方の声を聞くんじゃないくて、市民の代表としてどうやって産科がない大竹市で、少しでも皆さんの満足度が高まるような政策をつくれるかと、議会が議員として考えるときなのかなと思ってはおります。でもだからといって産科が欲しいと言われた方に、大竹市ではできませんわは言い返しませんしね。自分の中で無理だわと、100%今すぐにはできないと思ってても、それはできませんとは言いません。

そうですねと、やっぱり困ってるわけですから、やっぱりあったほうがいいという思いは、市民の方と共有しながら、じゃあどうしたらいいですかねというのを、また一緒に考えていくようなスタンスも取りながら、自分の調査したりとか、いろいろ勉強したりしたことも提案の中に入れてくというのをできたらいいなと思います。

○寺岡委員長 ちょっと時間もたってきたんですけども、こんな感じでもう少し時間を取りたいと思います。

まだ御発言が少ない方とかも、次また御意見いただけたらと思います。問合せでも構いませんし、こんな意見があったけど自分はこう思う。こんな意見があったのをプラスしてこうだとかでも構いません。

とにかく今は、皆さんから意見をどんどん引き出したい時間です。面白い意見、ユニークな知見、新しい気づきもたくさん私も今あります。これを聞き出したい時間ですので、またこの次も続けていきたいと思います。どんどんテーマを考えてみてください。問合せとかでも構いませんしね。引き出していきたいと思います。

10分間休憩しましょう。再開は14時2分にしておきたいと思います。

休憩します。

13時51分 休憩

14時02分 再開

○寺岡委員長 定刻になりましたので会議を再開したいと思います。

今日の会議の再確認をしておきます。これまでどういう組立てをしていくのかというのは、2月2日に話したとおりです。今日は講義を受けた後にどのような心持ちを皆さん持たれているのかというのを披露して、とにかく発言をしていただくようにしています。

3月終わり4月頭ぐらいに、共通の物として議会全体に紹介をすると。まだ具体的には考えてませんが、議会運営委員会、議長などにお示しして、議会運営委員会などでこういったものが出てきたと、これをみんなで守ろうやと、議会運営委員会の委員長、議長辺りから議会全体にお示しいただく物をつくっていきたい。

あくまで会議ですから、会議で出た物でないまとめることができません。皆さんの言ったことを、私が勝手に読み取って追記することというのはできませんから、とにかくし

やべってもらっているという状況です。そこら辺はこれまでの流れから御理解いただけると思うんですが、これまでの約半年間の取組の中で、皆さんが気になったこと、言いたいことも中にはあったでしょうし、また1期目の皆さんは自分たちはこう思ってるけど、本当はこうなっていると、何でなんやという問合せであるとか、そういうのも踏まえて出していただくのがいいんじゃないかなと思います。

これ結構まとめるのが大変だなとは思いつつ、でも、とにかく出してもらわないとまとめる中に入らないんですよ。そういった意味で、この時間を過ごしていただけたらと思います。

さあ、10分間の休憩中に何かあれ言っときたいな、これ言っておきたいなと思いつかんんじゃないかと思うんですが。

岡委員どうぞ。

○**岡委員** 負託というのがずっとここでテーマになってるんですけども、負託の一義的な意味ですね。第一の意味について少し違うのではないかと私は思います。

多くの人を聞いていると、要は市民の言葉や要望を負託されると考えておられるように思います。ただ、実際はそうではないと私は思っています。この市民がこう言ってるから、議会に持ってきてこういう、あの市民が言ってるからああいうというのは、結局のところ、この大竹市という船をあっちに向かわせたり、こっちに向かせたりで、結局のところ適切な場所にたどり着けなかったり、最終的にたどり着いても、非常に適当でない航路を通過して着くような、こんなことになる。

それは結局、負託の第一の意味というのは、そういうやり方をやっても駄目だから、議員にかじ取りを任せるという意味だと私は思っています。市民の意見というのはどうすればいいかということ、そのかじ取りの参考である。例えば市民の中には、ある分野に関しては優れた知見を持つてる人もいます。例えばこの船をずっとかじを取っていかなければいけないときに、ある市民は阿多田の沖にはこういう暗礁がある。暗礁というのは水の下に隠れたあの岩礁のことです。ということを知っている人もいます。そういうことを聞いて、そして確かなかじ取りをする。これが負託の第一の意味だと私は考えます。

そして第二義、場合によっては第三義は、市民の中にはこういう要望、あるいはこういう意見もあるというのをみんなで共有する。そういうのも負託に、第二義、第三義としてあってはいいとは思いますが。しかしあくまで第一義は、市民が個人がああだこうだと言ってもしょうがないから、議員にこの議員にかじ取りを任せると、そういう意味だと思います。

そう考えれば、今この話題になって一番最初に、委員長が言ってた選良というのと、どういうふうに折り合いをつける考えなのかという疑問も解消します。

以上です。

○**寺岡委員長** 負託ということに対しての考えをお示しいただきましたね。それぞれ上がってくる個々の要望というのは、まずは議会でも共有したりする物であるが、それ以前に負託というのは、市民が議員にかじ取りを任せるという意味であると。大きな意味での負託ということでしたね。

細川委員。

○細川委員 もうちょっと負託について、みんなで意見を言っていたきたいんですけども、何を負託されているかということですよ。かじ取りという言い方もあるかもしれませんが、これからの大竹の在りようについて任されたというか、例えば選挙のときに、いや私はもう大竹これからみんなが不幸になるような、そういう町にしたいと思いますと言って、お約束をして立候補して通らないと思いますけど、通ったとします。

そしたらそれが、私は市民の皆様みんなが不幸になる大竹をつくるというのが約束事ですから、それを負託された。それを言った上で1票いただいているので、そこじゃないかなと思うんです。

だから、それぞれ負託されたことがいろいろあるのかなって気がするんですけど、そういう考え方ってどうでしょうか。

○寺岡委員長 末広副委員長。

○末広副委員長 その話に続くんですけども、ここにいらっしゃる議員の中で、市民の言っていることをそのまま捉えて負託してあって考えてる方はいらっしゃらないと思うんですよ。いろんなイベントにも参加してお話を聞いて、例えばイベントで市民の笑顔を見てこれを維持していきたいという思いを、継続なりもっと膨らませたいという意味合いもあると思うんですよ。そういった市民の思いを形にするというのも負託の一部じゃないかなと思います。

以上です。

○寺岡委員長 この思いというのは直接言われたことに限らず、雰囲気であったり、行事でいえば、その行事の交流というか、ますますにぎやかになるとか、そういった感じかな。

分かりました。

山代委員。

○山代委員 いいとこ取りだと言われそうなんですけれども、細川委員が言ったように悪いことを言って通ることは、まずないです。ここにいる議員が全員大竹のためを思って立候補しているし、大竹のためになることをやろうと思って、今座っていると思います。その様々な各議員が大竹のためになるであろうことを持ち寄った上で、そこから取捨選択ではないですが、もっとよりよい物をつくるために、かじ取りが必要なのかなと思ってます。なので、それぞれのいいところを持ち寄って、よりよい物をつくり上げていくというところが必要なんじゃないかと思います。

○寺岡委員長 負託の先にはそれがあると。そのよりよい物のためには、議事機関としての役割を果たすということですね。

小田上委員。

○小田上委員 負託という言葉があって、まず投票を自分にくれた人に負託されたのか、市民全体に負託されたのかというところで、この人だったら任せたいよねといって、市民でも1人にしか投票できないから1人を選んでという方もおられると思うんですよ。3人ぐらい、4人ぐらい、本当はこの人、このメンバー多分16の議席だとして、立候補者が30人いたとして、その16議席のフルメンバーを自分で考えられるのであれば、この16人を

選ぼうということできると思うんですが、その中で1人しか選べないから1人の名前を書いて投票してるので、市民の全体の負託を受けたという考え方を僕はしてるんですけど、皆さんそれぞれ市民の方も16個席があるんだったら、このラインナップが一番いいんじゃないかと思う方もおられると思うんですね。

なので、市民全体の負託というところで考えたいんですけど、市民全体の負託を受けている立場として、もう片方に市長がいますよね。二元代表制と言われるところで、かじ取りという言葉を知ると、正直僕は市長のような気がします。大まかなかじ取りは市長がやって、その市長が変なところに行かないような微修正だったり、方向を間違えないように示すというか、そういう役割なんじゃないかなと思ってるので、多分全体のことを任されてる、負託されてるのは、一義的には市長で、そこにプラスアルファで悪い方向に行かないようにする仕事を任されているのが、市議会なのかなと思ってます。なので、自分の個人的な印象としてはかじ取りをしている印象がないもので、そんな感じです。

○寺岡委員長 小出委員。

○小出委員 確におっしゃるように船にかじは1個しかないので、その船のかじを取るの市長なのかなと、そういう船で例えれば、執行部が乗組員だとすれば、じゃあ議員って何だろうといったら船が間違った方向に行かないように、あるいは寄港先を案内する水先案内人のような立場で、やはりいろいろアドバイスする、軌道修正する、そういった役割を持つのが議員なのかなと思ったりします。

○寺岡委員長 ただ講義であったように、議員というより議会の役割になりますかね。議員が議会の一員として、合意形成を目指して市長と同等の権限を持つというところではないかと思うんですが、その一員としての自覚をしっかりとしましょうということでしょうね。そうですね。

負託についてどうですか、ほか。

岡委員。

○岡委員 さっき申したことを少し別の言い方でまとめるような感じになると思いますが、結局負託という言葉ですが、言葉を託されるという意味ではない。それは二義的、三義的なものであって、やはりさっきのかじ取りという言葉で表現すれば、かじ取りを任される。言葉を託されてそれをメッセンジャーとして伝えるのが議員の主な役割ではなく、かじを任されると確認してもいいのではないかと思います。

特に、議員は将来を考えてやらなければいけないと私は思っています。これはなかなか、執行部と一つになっている市長にはできない。できる市長ももちろんいるんですが、しにくいのではないかと私は思います。そういう場合が多い。未来の市民の負託というのでもやはり私はあると思っているんですが、ただその人たちは今ここにはまだいないので、私たちに直接何か言って、それを反映することはできない。だからそこを考えて、私たちは未来の負託に応えられるように考え行動していくべきだと思っています。

○寺岡委員長 岡委員は常々老人が木を植えるというギリシャの格言の話もしていただきますが、それと合わせて将来をしっかりと考えていかないといけないというお話でした。ただ執行部と一緒にいる市長には、それはやりにくいというのが、ちょっといまいちび

んとこなかったんですが、どういう感じですかね。

○岡委員 それは市長の性格、どういったことをやろうとしているかにもよるんですけども、往々にして職員がつくった政策を市長が反映している例が多いように、この間私は見受けました。

○寺岡委員長 そういう受け止め方をされてるみたいですが、どうですか、皆さん。

小田上委員。

○小田上委員 研修会の中では、市長と二元代表制ということで、市長と議会が対峙するというような構図ではあったと思うんですが、本当に市長と対峙をしてるのかというと、議会のやり方、今までの僕のイメージでいけば、執行部と対峙してるイメージなんですよね。執行部は何でそういう行動するかというと、市長にこういう思いがあって、その思いを実現するためなんだろうと思うんですけど、実際現実的な問題で、議案の審査のときに市長に対峙してるなという認識は僕個人なくて、執行部が出してきた議案について、中身についてとなると市長は言葉を発することがほぼない。

となると、雰囲気としては執行部と対峙してるようなイメージでいるんですけど、本当に市長と対峙できてるのかなって、悪い言葉を言えば、市長は僕のことを相手にしてくれてるのかなと思うときもあるんですけど、なので多分市長と議会なんでしょうけど、議員はどういう立場におるのかなと、ふと対峙するとか聞いてて、どうなんだろうと思いました。

○寺岡委員長 細川委員。

○細川委員 私は小田上委員のように思ったことはあんまりないんですけどね。職員の皆さんは、やっぱり全て市長の思いを形にしているのが仕事ですので、もし提案されたことが否決でもされようものなら、それってやっぱり市長の方針に対する駄目出しですからね。一つ一つのことは職員を通して市長と語り合っているというつもりではいます。どうなんでしょうか。

○寺岡委員長 ちょっと休憩します。

14時21分 休憩

14時22分 再開

○寺岡委員長 会議を再開します。

市長は執行部、要は市の代表であるということには変わらないということですね。例えば答弁でいえば主に担当になっている職員が市長を代弁して詳しいところまでお話されていると受け止めていいんじゃないかなと思いました。

いろいろ出てきているんですが、どうですかね。まだ本当は時間があればもっとやりたいところなんですけど、政務活動費のこととかもやっていかないとはいけません。まだあればぜひ伺いたいんですけど、どうですか。

小出委員。

○小出委員 事業の評価、政策の評価は誰がするのかという話が出たときに、議会でしょうという話があったかなと思うんですけどでも、確かに議会が事業政策の評価をするんですけど、主体は執行部ですよ。あるいは市長ですので、その政策ごと、事業ごとに、まず

この執行部なり市長が、しっかりと事業に対しての総括というものがあって初めて、それを評価できるんじゃないかと思うんですね。

その辺が決算委員会であるということを見たときに、確かに数字上、執行額は出ますけれども、その事業が本当に成果を出したのか、出さなかったのか。失敗だったのか、成功だったのかというところの話が出てこないですよ。それで正しく議員として評価ができるのかなというところが、ちょっと疑問に思います。

○寺岡委員長 総括されていないのに、こちらとしても評価できないと。

○小出委員 普通の一般企業であれば、当然その事業ごとに結果が審議されるわけですよ。下手したら役員の首が飛んじゃうわけですけども、そういったところの、本当にこの政策ごとの執行部の評価、総括というのが正しくなされているのかどうなのかというところが少し疑問に思うので、毎年同じような事業や政策が展開されていていっているところに何の疑問も持たずに、その辺がすごく見ていてちょっと疑問に思うところがあります。

○寺岡委員長 総括されている物もありますよね。それが正しくされているのかというところじゃないかなと思います。

小田上委員。

○小田上委員 事業評価をまず総括されていないのにしづらいというところは、おっしゃるとおりかなと思います。ただ、議員が事業の評価をしないと、それをしっかり突っ込んでいかないと、そのまま小出委員の言われたように、だらだらと続けることもあるかもしれないとすごく思いました。

同じような事業がずっと続いている理由というのは、多分政策が大きく変わってないからなんだろうなと思います。その政策が大きく変わってない理由というのは、その政策を持った市長がいるからだと思うんですね。その市長が何でずっと続けているかというところ、市民が選んでるので、政策の評価は市民がしてるんだと思います。各事業の評価は毎年議員が市民を代表してやってますけど、政策の評価は4年に1回、まだこの政策を続けてほしいと思っている市民が多いので、市民が市長を選んでもんじゃないかなと思ったりもします。政策の評価をどうするかというのは、最終的には市民になると思うんですが、その市民が評価を下しやすくなる、判断をしやすくなる作業というのは、議会もできるのかなとは思いますが、最終的な評価は誰がしましたというところ、市民なのかなと、今話を聞いてて思いました。選挙というものがありますのでね。

以上です。

○寺岡委員長 細川委員。

○細川委員 今の小田上委員の意見に全く賛成なんですけど、ある意味いろんな切り口の政策評価があると思いますので、4年に1回の選挙も一番大きな評価にはなるかだと思います。さっき小出委員が言われた、決算のときにそれぞれの事業評価がちょっとされてないと。去年の決算委員会的时候に、事務事業評価が出てなかったですよ。教育委員会はぎりぎり出てきたんですけども、事務事業評価本当は毎年決算の前に出るんですが、出てなかったの、余計そう思われたんだと思います。議会としたらやっぱりそれをきっちり出していくように、執行部に、決算の前には言わないといけないかなと思います。今、小出委員

の発言を聞いて改めて思いました。

○寺岡委員長 決算前にしっかり自分たちはどうだったか。それを出してもらったほうが、我々も評価しやすいということですね。

いろいろ意見が出てきましたが、私はちょっと一個疑問点というか、皆さんの考えを伺っておきたいなというところがあるんですけど、皆さんにとって事務局ってどんな存在ですか。

私は、議会の一員だというのはもちろんなんですけれども、やっぱり協力し合って一緒にタッグを組んで、政策提言とかというときに力を貸してもらおうようなところだと思いますし、我々がルールをちょっと外しそうになったときに正してくれるような、そういう専門家ではないかなと思ってます。

ですので、しっかり力を発揮してもらいたいところであるんですよ。ただ、それは議会にとっての事務局であって、議員にとっての事務局ではないというのを忘れちゃいけないんだろうなと思ってます。言葉が分かんないけど、議員の秘書じゃないということ。議会の秘書かもしれないけど、議員の秘書ではないというところは、我々は分かっておかないかな。どの辺りを力を発揮してもらって、一緒に議会活動に臨んでいくかというところなんですけど、皆さんはどう思っていますか。

小田上委員。

○小田上委員 いろんな議事運営、議会運営の補佐をしてくださるので、この中継も今議員が何かして中継ができてるわけじゃなくて、事務局が全部整えてくれているというところで、勘違いしがちなところで雑用係みたいに考えないようにしないと、あれも頼むこれも頼む、本来は自分でやらないといけないような、委員長も触れられました議員個人のことであっても、お願いしてしまうみたいなこともあろうかと思うので、そこは事務局の仕事はこれだというのが何かあれば、これはできないんですよって事務局も断れるかなと、議員個人のものでありますから。ただ議会として取り組むと決めたことに関して、議会として取り組むんだから協力をお願いしますねということも、逆に言いやすくなるかなと思ったりとかはしました。

なので、一言で言うと今のところ頼れる存在だと思ってます。

○寺岡委員長 追加ありますか。

当事者はどのような心構えで議会事務局をやっていますか。

局長、お願いします。

○山田議会事務局長 今いろいろ御配慮いただいたとおりでと思います。議会のためにやっているというのはもちろん、我々も執行部との人事交流というのはもちろんありますけども、そこは一つ線を引くというか、気持ちを切り替えてやらなきゃいけないなというところもありますし、もう一個いえば、そうは言いながら執行部も経験をしてきているところなので、議会の活動と執行部とのこの関係というかやり取りが、なるべく円滑にいくように上手につなぎみたいなことはやれたらいいのかなという思いを持っています。

○寺岡委員長 山代委員。

○山代委員 あと付け加えるなら癒やしかなと思ってます。私はまだ新人議員で右も左も分

からない部分が多々あるんですけど、間違っただけでも優しく教えてください、ちゃんとここはこうですよという説明もしてくれますし、その際に嫌な顔一つされたことは今まで一度もないので、にこやかな顔をしていつも縁の下の力持ちではないですけど、議会運営では欠かせない存在だなと思っています。

○寺岡委員長 前向きな発言が出たところで、そろそろ今日はこの辺りにしとこうかなと思うんですけども、こうやって意見をしっかり出してみる。今日傍聴も大勢来てくださっています。それぞれが役割と、あと組織と個人としっかり分かりながら臨んでいけたらいいかなと思います。

これからのこのテーマに関しては、ちょっとまとめてみます。今日のメモと事務局が書いてくれる記録を全部照らし合わせて、たたき台をまたつくってこようかなと思います。これは心構えとしての恐らく箇条書になるのではないかなと思います。できる範囲までやってきて、次回またみんな皆さんにたたいていただこうかなと思います。

そこに追加、修正というのはどんどん入れていっていただきたいですし、4月入ったぐらいいは議長に報告ができるようになればいいかなと思います。

それでは、今日皆さんから本当にたくさんの思いを聞かせていただきました。一つも無駄な物はないと思います。これを共通の物にどうしていくかというので、またお力をお借りできればいいかなと思います。

では以上で日程2を終了し、この議会のあり方調査研究特別委員会、第1幕は閉会したいと思います。これから第2幕へ始まるかと思っていますので引き続きお願いします。

閉会します。

14時35分 閉会